

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	最後までその人らしく生活できるように支援したい、笑顔の多い家族のような介護を提供したいという理念を持ってケアしている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週1回の会議・月1回の全体会議を通じて同じ思いを共有できるよう努力している。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域密着型サービスになったことで、地域住民の方が入居するようになり、見知った顔の方が入居するようになった。全く見ず知らずの人ばかりがいる施設ではないので、そのことを家族が喜ぶようになった。	○	夕涼み会、敬老会などの催し物を通じ家族や地域との交流を深めているので今後も努力したい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夕涼み会の時など、チラシ配布をして参加を呼びかけている。また、近所の方で、収穫したお野菜を届けてくださる方がいる。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	重度の方が多く地域の活動には参加できていない。	○	ホームに来てくださる方との交流を積極的に行ったり、近くの保育園児との交流を計画的に行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組めていない。	○	認知症サポーターなどの取り組みや、相談窓口としての取り組みなどを行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価された点（ファイリングの問題点・マニュアルの作成等）について改善を行った。また、運営推進会議などでもテーマとして取り上げ、参加者の意見を聞いた。	○	改善を行った点などを会議で話しあった。今後も改善が行われるたびに話し合っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、話し合われたことを現場にフィードバックしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明なことがあったら、聞きやすい体制になっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の家族が入居者の年金を使っているケースがあり、支払が滞ったため、活用を勧めたことがあるが、実際の活用には至らなかった。	○	管理者などは、権利擁護の制度を理解しているが、現場の人間は、まだ十分な理解に至っていないので、会議などの場を通して勉強会をする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で、スピーチロックや、身体拘束が行われないように注意している。	○	今まで、玄関の鍵はオープンになってきたが、今後も続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員・管理者とは、アセスメントの時にしている。（プランに取り入れ、実行している）外部の方に伝える体制はまだない。	○	今後、第3者に苦情が言える状況を考えていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1度便りを送付している。また急変時・特変事は電話連絡を行っている。また、2wに一回病院の往診があり、その結果を随時伝えている。面会時にも、本人の状況を伝えている。	○	写真付きのお便りは、一ヶ月の状況がわかると、家族にも大好評である。（主介護者以外の親戚にも、コピーして渡しているようである。）今後も定期的にお便りを発行していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1ヶ月ごとに家族の意見を文書にてかける機会を設けている。	○	月1のペースで、アンケートをお願いすると共に、ご意見を引き出せるような（気軽に何でも言うことが出来る）スタッフと家族の関係を努力している。今後も継続していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどを通じ、意見を出し合うようにしている。	○	週1の会議・月1の全体会議を通じ、意見を交換している。（毎週の会議に副社長も参加していただき、職員の意見を聞いていただいている。）もっと意見を引き出せるような、会議環境・会議内容にしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務帯を変更したり、多めに人員配置を行うようにしている。	○	特に人手が必要な時間には、6:30から10:15までの勤務者がおり、助けていただいている。今後もっと入所者がゆっくりと生活できるよう、ボランティアの導入も勧めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく職員の移動がないように努力している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には都合がつく限り、積極的に行くようにしている。	○	新人研修を含め、県から送られてくる研修内容に日時があえばいけるように勤務の都合を付けている。今後も続けていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のネットワークを通じて、西諸圏内にある、グループホームと情報交換や勉強会を行っている。	○	グループホーム連絡協議会にて、運営推進会議のあり方、ターミナルの実践、職員のストレスの解消などのグループワーク・事例発表・研修会に参加してきた。今後も、他のグループホームと連携しながら、勉強会を行っていきたい。また、野尻町の介護従事者の勉強会が12月に開催予定である。この会にも参加したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	コミュニケーションを図れる体制を作ったり、スタッフの食事会などを計画している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	積極的に資格取得に向けて努力するよう促している。また勉強会にも参加するよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまで、本人との関わりが少ない。ケアマネージャーと連携し、情報を頂くのが現状である。	○	家族等の見学はあるが、今まで本人の見学はない。見学の時に、出来るだけ、利用者本人も連れて見学に見えるよう働きかけたり、ケアマネージャーにもそのように声をかけいきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の心配事や、困っていることを直接聞くようにしている。	○	適宜、家族との話し合い（面会を含め、お便り、電話連絡等）を行っており、また、家族会（敬老会や、新年会・敬老会などの食事会）などを設けることにより、最初はぎこちなくても、徐々に施設側にうち解けていっているようである。今後も安心して預けられるような精神的フォローをはかっていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅のケアマネージャーと連携しながら支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その人によるが、納得しあう形で、利用できる場合と、いきなりサービスが開始されてしまう場合がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に笑える関係作りを目指している。	○	笑いのある家族のような介護が提供できるようにしている。何気ない、小さなことを笑いにしたり、今まで出来なかったことが出来るようになったりことを一緒に喜んだりしている。今後も、このような暖かい関係を育んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	笑顔が見られたとき、おもしろかった様子などを積極的に伝えられるようにしている。	○	お便りや、面会時の報告で、欠かさず小さなことでも報告している。家族から、「ばあちゃんは、ここで良かった。」との意見もあり、今後も小さいことでも報告していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今まで遠方にいらっしゃる家族とは疎遠だったが、お便りを主介護者以外の家族にも送ったところ、お菓子屋や、花・はがき等が届けられるようになった。	○	特に、利用者の兄弟・姉妹が遠方におられ、心配しているとの報告を受け、お便りを送付したところ、「会えないけれども、幸せそうで良かった」との電話があった。今後も、疎遠になった家族との架け橋になっていけるよう努力して行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り等を通して、なじみの場所と関係が切れないうように努力している。また、外食などに家族と出かけられるよう支援している。	○	急な外出にも対応できるようにしている。（急に電話がかかってきて、今日の昼ご飯と一緒に食べたいなどの内容の時、臨機応変に対応している。）今後も続けていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良くできる利用者、相性の合わない利用者を把握し、テーブル配置を考えている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当所にてターミナルを迎えた方で、夏祭りや忘年会等にお呼びして、家族の交流会に参加していただいたことがある。	○	お誘いしたときに「この利用者さんはみんな私のじいちゃんであり、ばあちゃんだ。あえて嬉しい」との意見を頂いた。今後も機会がある度にお誘いしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主介護者からだけではなく、本人や、面会に来られた方などにどんな暮らしぶりをされていたか情報を得るようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式などのアセスメントツールを使って、情報を把握するようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式の中に「できること」「できないこと」シートがあるので、そのシートを利用しながら、把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を取り入れたケアプランを作るようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時必要なときに見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果は記録されているが、もっと積極的に気づき・工夫を記録できるようにしていきたい。	○	ケア記録に「特記事項」「参考」等の項目をもうけ、プランにあげられている記録以外にも気づきがかかるようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム単独施設なので、限度があるが、出かけるときにリフト車を貸し出したりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防との連携を行って、救急法や、消火訓練などを行った。	○	消防署から職員を呼び、救急時の心肺蘇生の方法などを教えていただいた。命に関わることで、最低でも1年に1回はこのような講習を行っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現行の制度では、GHは他の制度を利用できない。	○	介護保険のサービスについては利用したことがないが、福祉用具のレンタルが、GHでも使用できたら…。と思う。医療保険の訪問看護等は検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターで開かれるケアマネージャーの会に参加するなどして、情報交換を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があればかかりつけ医を継続している。現状往診に来てくださる医療機関のドクターがいらっしゃるのでそのHPに依頼することが多い。	○	往診に来ていただいている医療機関の他に、月一回受診している病院がある。スタッフが連れて行っているが、出来る限り、かかりつけ医を変えなくてすむよう努力していきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の意向に沿いながら、専門医受診を勧めることもある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフとして看護職が配置されているし、同一法人施設との看護師と連携している。また、医療機関の看護師とも連携できている。	○	現在経管栄養の入れと抜きをシフトを作って同一法人のすべての看護師と連携しながら行っている。すべての利用者の情報知り、緊急時に対応できるような看護体制を今後作っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院したときには、お見舞いに行ったり、ドクターと退院時期について相談できる体制がある。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取り指針に同意を頂いている。またそのときになってみなければ決定できないことがあることも伝え、気持ちの変化は最後まであることもお伝えしている。	○	ここ1年ターミナルのケアは行っていないが、ターミナルになる可能性のある利用者はいらっしゃるので、家族と良い関係を築き、自分の意見を言いやすい環境を整えておきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルに取り組んで、その都度ご本人や家族、またスタッフが最後まで悔いのないようにケアが出来る体制を整えている。	○	ここ1年ターミナル事例はないが、事業所の出来ること、出来ないことを見極め、医療機関や、家族との連携を図り、利用者の方がよりよく暮らせるための支援に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までに退去されたケースは緊急時による入院のため、ダメージ防止を優先させてもらえないケースが多かった。	○	入院や、遠方でない限り、その施設に見学に行ったり、気持ちよくその日を迎えられるよう援助する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	男性利用者が多いので誇りを傷つけないように特に配慮している。	○	のぞきをされる方がいらっしゃるの、特に女性利用者への配慮も必要である。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴の希望や、レクリエーションに参加するときの希望を取り入れた支援をしている。	○	今までも、本人の希望通りにレクリエーションや、入浴などを行ってきたが、今後も行っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを守れるように支援しているが、職員の決まり事が優先することもある。	○	出来るだけ、利用者の意思を尊重できるように、業務を手早く行うようスタッフに徹底する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホーム内で髪染めをしたり、本人の好きなピンを使っておしゃれをしたりしている。	○	化粧をしたり、自分の好みの洋服を着たりという支援がまだ出来ていないので、意識するような声かけをスタッフが出来るようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房とも話し合いながら献立を決めているし、利用者と職員と一緒に準備片付けを行っている。	○	食事は、利用者の最大の楽しみのようなので（と、ある利用者が言われていた。）楽しい食事が出来るようこれからも創意工夫していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体力の問題から、お酒やたばこはなるべく提供したくない。ご家族と外出されたときに楽しんでおられる方もいらっしゃるが、ホームに戻られてから、体調が悪いことが多い。	○	本人の好みと体調の状況を家族と話し合いながら、利用者と話し合って楽しんでいただけるようにする。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべくオムツの使用を減らすようにしている。	○	今後も、一人一りの力、排泄パターンを理解しなるべくオムツを利用しないように支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のタイミングはつかむようにしているが、なかなか施設の都合になってしまうことが多い。	○	入浴日は決めてあるが、その日の状況に合わせて変更できるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく睡眠薬を使わなくて良いように、日中活動をしたり、電気がついていないと眠れない人には電気を消すなどその人に合わせた対応をしている。	○	今後も、入所者一人一人が安心して過ごしていけるように、個性を把握し、対応していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族が田植えをするときに一緒に参加させてもらったりしている。	○	ウォーキングが好きだという方には散歩を楽しんでいただいたり、畑仕事の好きな方には、芋植え、芋掘り、田植えに参加していただいたりした。今後も生活に張りのあるイベントを計画実行していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には、本人が病院受診したときや、外食をしたときに持っているお金を使うこともある。	○	外出したときや、ホームにパンの外販者が来られたときなどにお金を使用している。今後も本人の金銭能力がある限り、続けていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食に行ったり、近くの公園に遊びに行ったりしている。	○	その日の希望にはなかなか添えないが、外食に行ったり、近所に散歩したりしている。今後も出来るだけ利用者の希望に添って行動できるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の夏祭りに参加できるように支援したり、墓参りを支援したりしている。	○	近所の風呂屋にお弁当を作ってみんなで歩いていったりした。利用者もとても喜んでおり、今後も計画したい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の帰宅欲求があるときに電話をご家族にかけて帰りたい気持ちを理解してもらったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問されたときにはお茶を出したり、気持ちよく来ていただけるような挨拶を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう極力努力しているが、医療上必要な状況が生じ、一人に対して出来ていない。	○	現在2点ベッド柵の方が一人おられる。可能な限り外しているが、経管栄養中などは、ファーラー位にもかかわらず動かれるので、危険と判断して柵を使用している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はしていない。外に出て行きたいときには一緒に出て行くようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関にセンサーがあり、帰りたい気持ちになっている方がいるときに把握できるようになっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自由に動ける方が多いので、転倒予防や、異食行為など、つつい、一律の管理をしがちである。	○	一律の管理をしているが、どうすれば、一人一人にあわせた状況になるか、考えながら、ケアが出来るように努力していきたい。考慮の余地あり。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書を活用しながら、勉強をしているが、十分とはいえない。	○	ヒヤリハットをどうすれば今後に生かすことが出来るのか考慮する余地あり。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一度計画している。	○	もっと頻繁に行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に一度は避難訓練を行っている。	○	地域の方との連絡体制を整えているが、形骸化しているので、もう一度作り直す必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	病気のリスクについては、病院のドクターと連携しながら、ムンテラの機会を多く設けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	どんなときに看護師に連絡すべきか一覧を作り連絡体制を作っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋やお薬の効能書を読んで、ある程度は把握するように勤めている。新しい薬が来たときには、お薬時点なども調べている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩を促すなどして、腸内が動くようにしたり、オリゴ糖茶を飲んだりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを行っている。また、じぶんで行えない方には、口腔ケア用のウェットティッシュのような物を使用している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	だいたい量を把握する様にしている。また水分は1日1000cc摂取できるように目標を立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルをその都度作っている。現在特に手洗いマニュアルを掲示し、手洗いの励行を促している。	○	昨年の冬、感染が広がりかけたので、特に、手洗いの励行は頑張っていきたい。また、次亜塩素酸を使用した掃除も徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾などは毎日漂白剤に浸けるようにしている。また、冷蔵庫の掃除も定期的に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に腰掛けてはなせるようにいすを置いたり、季節の花を植えるように努力している。	○	近所の方が来られるわけではないが、隣のグループホームの利用者と玄関のイスごしに話したりする姿が見られている。今後も暖かな風景が見られるように努力していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場にはすだれを利用したり、トイレに臭いがしないように消臭剤を使用したりし、気を配っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置くなどして工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	マッサージチェアを持ってこられたり、写真を 飾ったり、のれんを持ってこられたりとその方ら しい工夫をしている。	○	本人好みの空間になるよう、今後も工夫してい きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	こまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	バリアフリー構造になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	「わかること」は「出来る範囲」支援するよう努 めている。たとえば、トイレの場所がわからなく ても、排泄の行為が出来る方にトイレの場所をそ の都度教えるなど支援している。	○	本日の本人の残存能力は日によって異なるので、 本人に出来ることなのか、注意しながら、今後も ケアを行っていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	庭や畑を通じて農作物にふれあい犬や猫が安らぎ を与えてくれる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人らしい生活を支援できるように頑張っています。